

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林生態系保全センター
平成 28 年 2 月発行 No.46 号



オオバエゴノキ

木道利用に係るガイド講習会の開催について

沖縄森林管理署及び九州森林管理局西表森林生態系保全センター(以下「沖縄署等」という。)では、西表島の森林環境教育の拠点施設として、平成 20 年度に仲間川の支流(北舟付川)に隣接するマングローブ林及びサガリバナ林内に、延長 150m の木道を整備しています。

この木道は、森林環境教育の推進を目的として設置したもので、一般の方の利用を制限させて頂いています。

しかし、沖縄署等が実施する「木道利用に係るガイド講習会」を受講されたガイド等の方々に対しては、安全に案内される場合に限って利用していただくこととしています。また、利用に当たっては、木道の利用状況等について報告していただくこととしています。

今回、平成 28 年度に木道の利用を希望されるガイドの方々を対象として、下記のとおり、木道利用に係るガイド講習会を開催致しますのでお知らせします。



- 1 開催日時 平成 28 年 3 月 8 日 (火) 15:00~19:30
 - 2 開催場所 竹富町離島振興総合センター (沖縄県八重山郡竹富町南風見)
- 申込み等詳細については、
西表森林生態系保全センターのホームページをご覧ください。
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/iriomote_fc/index.html



船浦中学校及び大原中学校の西表島横断を支援

竹富町立船浦中学校と大原中学校三人行事の一つ「西表島横断」が行われ、当センターと大原、租納森林事務所が森林環境教育の一環として参加・支援しました。

この西表島横断は、自然の素晴らしさ、厳しさ、環境問題等について考える機会とし、約 9 時間というただひたすら山中を歩き続ける長丁場で忍耐力を養い、助け合う心、励まし合う心を育てることにより友情の輪を広げることが目的としています。

1 1 月 1 日は船浦中学校で生徒や先生、保護者等総勢 69 名が挑戦しました。1 1 月 7 日は大原中学校が生徒や先生、保護者等総勢 68 名が挑戦しました。横断は、10 名程度の班に分かれて 8 時 30 分頃から出発し蒸し暑さの中、沢やぬかるみ、ロープを握って急斜面越えなど大変な道のりですが、声を掛け合い協力しながら最後の班が 18 時 30 頃に到着し、全員無事に踏破に成功しました。生徒は達成した喜びで歓声を上げてまだまだ元気一杯の

様子でした。終了後、校長先生から「生徒はこの貴重な体験が忘れられない良い思い出になると思う。地域の方々と一緒になった素晴らしい行事です。今後ともご支援をお願いします。」との御礼の言葉がありました。



白浜小学校の「山の体験学習」を支援

10月24日(土)に、白浜小学校の三大行事である「山の体験学習」が森林環境教育の一環として実施され、当センターと租納森林事務所が参加しました。

当日の参加者は、生徒15名、教職員10名、保護者等25名、合わせて総勢50名で、9時30分に浦内川船着場を出港し、途中、マングローブや旧稲葉集落の説明を受けながら、軍艦岩船着場から上陸しカンビレーの滝を目指しました。

滝までの道中、クワガタやカエルなどを見つけたり、講師の説明を聞いたり、また、オキナワウラジロガシのドングリなどを拾いながら、ゆっくりとしたペースで歩き12時頃に到着しました。

小雨が降ったり止んだりの天気でしたが、昼食後、生徒たちは滝の上流まで行き、ポットホール(河底や河岸の岩石面上にできる円形の穴)の中に入ったり、滝の裏側に入ったりして楽しんでいました。

13時20分に下山を開始し、15時頃に無事浦内川船着場へ到着しました。その後、終わりの会を行って帰路につきました。

終わりの会では、生徒から「クワガタは晴れた日と雨の日ではどちらが多くいるのですか」などの質問が出されていました。



オオバエゴノキ (エゴノキ科 *Styrax japonica* var. *kotoensis*.)

山の谷間に多く生育し、高さ7-8mの落葉の小高木で幹の肌は滑らかです。オオバエゴノキは、エゴノキ(葉の長さ4-8cm、幅2-4cm)より葉が大きくなっています。実は円錐形で長さ1cm程度、灰白色をしています。種はサポニンを含み毒があります。名前の由来で一般的になっているものは、実をかじると、アクが強くエゴイ味がするのでエゴノキとされています。山を歩くと白い花びらが地面にたくさん落ちています。

西表島西部に生育する希少マングローブの調査を実施

12月3日に西表島西部（ウダラ川、ユナラ川、内離島）に生育する希少マングローブの調査を行いました。調査は、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されているヒルギモドキと準絶滅危惧種に指定され西部には唯一網取のウダラ川に一カ所しか生育していないマヤプシキの生育状況を観察しました。



結果については、マヤプシキが前回の平成18年調査では5個体を確認したのに対し、今回3個体に減っていました。ヒルギモドキは、ユナラ川に3個体及び内離島に数十個体が確認され変化はありませんでした。

今後においても定期的に調査を行い生育状況及び生育環境の変化について注視していく必要があると考えています。

今後においても定期的に調査を行い生育状況及び生育環境の変化について注視していく必要があると考えています。

西表島に生育する外来種 ④

ソウシジュ



(マメ科 *Acacia confusa*)

別名タイワンアカシアとも言われています。

本種は、「日本の外来種リスト」で、日本で侵入・定着の可能性が高く外来種と判断された維管束植物の一種にリストアップされています。

沖縄では公園樹、街路樹、防風林に適し、根に根粒菌を有し、1906年に台湾から導入したとされています。

葉のようにみえるのは葉の柄の部分で、葉は退化しています。花は短状花序で腋生し黄色で少し甘い匂いがします。明治時代に緑肥用として持ち込まれ、繁殖力が強いいため西表島の県道沿線でみられます。

侵入生物 / 外来生物とは？

人間によって自然分布域以外の地域に移動させられた生物を「外来生物 / 外来種」「侵入生物 / 侵入種」「移入生物 / 移入種」などといいます。貿易大国の日本では、これまでに2000種を超える外来生物が記録されています。外来生物は、移動先で繁殖集団を形成し（定着または帰化と呼ばれます）、その土地の生態系・農林漁業・人間の健康や日常生活などに対して影響を及ぼすことがあります。大きな影響を及ぼすものを、特に「侵略的外来生物」といい、世界的な問題となっています。

原因は何か？

外来生物問題が生じる原因は、様々な形で人為的に生物が運ばれ、野外に放たれること（導入と呼ばれます）です。導入されたものの一部が、野外で繁殖集団を形成し（定着と呼ばれます）、長期にわたって様々な影響を及ぼすようになります。運ばれ方（侵入経路・導入経路）は様々ですが、いずれも我々の日常生活と密接に関係しています。運ばれ方によって予防方法が異なるため、導入経路の特定は、防除戦略を立てる上で重要な課題の一つです。

その影響は？

外来生物による影響は、運ばれる生物の種類と定着先の環境の組み合わせによって様々です。生態影響（その地域在来の生物多様性・生態系への影響）のほか、外来生物の持ち込みによって、いわゆる害獣・害虫・雑草などと同様の農林水産業被害・人間への健康被害を新たに引き起こすこともあります。

(引用：国立環境研究所 侵入生物データベース)

西表島の似たもの植物

ヤエヤマヤシ

V s .

マニラヤシ



区 分	木本類
分 布	石垣島、西表島
葉 の 形	
葉 の 縁	
葉 の 先	

区 分	木本類
分 布	フィリピン原産
葉 の 形	
葉 の 縁	
葉 の 先	

葉 の 種 類	羽状複葉
葉 の 付 方	束生
葉 の 基 部	くさび形
実 の 種 類	核果
花 ・ 萼 色	淡黄色

葉 の 種 類	羽状複葉
葉 の 付 方	束生
葉 の 基 部	くさび形
実 の 種 類	核果
花 ・ 萼 色	乳白色

説 明
 低地から山地に生育し、高さ 15-25m に達する常緑の高木です。幹は円柱形で、木の先端に葉が集まっています。葉は長さ 4-5m になり、葉柄は短く、葉身は光沢のある革質で、小葉は 30-70 cm、幅 3-4 cm です。実は核果、長楕円形で長さ約 1.3 mm、幅約 7 mm で、熟すと赤色から黄色になり、キジバトやヒヨドリなどの餌となっています。自生地である石垣島の「米原のヤエヤマヤシ群落」と西表島の「ウブンドルのヤエヤマヤシ群落」は国の天然記念物に指定されています。

説 明
 名前のとおりフィリピン原産の常緑中木で、高さが 4-6m です。幹の径は 15-25 cm、環状紋（竹の節のようなもの）がはっきりしています。葉は羽状複葉で幹の先に集まり、葉柄は 50-70 cm、小葉は多数で線状被針形で革質、2m ほどになります。花は頭状花序で腋生し黄色で少し甘い匂いがします。

林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内
 TEL : 0980-88-0747 FAX : 0980-83-7108

URL: http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/iriomote_fc/index.html

